

【戸塚区】令和6年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和6年2月5日 10時 00分 ～ 11時 30分
場 所	戸塚区総合庁舎9階特別会議室
出席者	<p>【座長】鈴木太郎議員</p> <p>【議員：5名】山浦英太議員、伏見幸枝議員、 中島光徳議員、坂本勝司議員、大和田あきお議員</p> <p>【戸塚区：23名】國本直哉区長、小島寿也副区長、 飯野真理福祉保健センター長、増田政博福祉保健センター担当部長、 白井一彦土木事務所長、田邊栄久災害対策担当部長（戸塚消防署長） ほか関係職員</p>
議 題	<p>令和6年度 個性ある区づくり推進費 戸塚区予算案</p> <p>令和6年度 個性ある区づくり推進費 事業別説明書</p>
発言の 要 旨	<p>大和田議員：豊田小学校付近の通学路の歩道が狭いため、改善を検討してほしい。</p> <p>安達土木事務所副所長：用地を買収して道路を拡げない限り対応が難しいので、対応できなかった現状がある。現地を確認し、具体的にどこに策ができないか検討する。</p> <p>大和田議員：認知症が進まない対策として「おしゃべりサロン」のような取組をさらに充実させてほしい。</p> <p>山崎高齢・障害支援課長：「おしゃべりサロン」など認知症対策の取組は必要と考えている。戸塚区は認知症カフェが8か所ほどあり、若年性認知症の方を対象としたカフェも舞岡病院の認知症疾患医療センターを中心に昨年度から実施している。来年度には市民向け普及啓発の講座も企画している。</p> <p>中島議員：地域防災拠点とマンションとの連携訓練が実施されたが、実</p>

施してみてもの課題と、来年度予算で連携訓練が何回行われるか教えてほしい。

藤咲総務課長：地域防災拠点とマンションの情報受伝達訓練をはじめ、拠点からの物資の運搬訓練を実施した。マンションの参加者からは「自助が重要だと気付いた」など前向きな意見があり、今後は自治会組織のないマンションや拠点と連携のできていないマンションへの働きかけをし、区としても連携を拡げていきたい。

中島議員：能登半島地震で避難所開設の課題が明確になった。避難所の開設・運営や、高校の補充的避難場所の活用について、区として見直しが必要ではないか。

藤咲総務課長：拠点の開設・運営については、開設からスペースや電源の確保など最低限の対応をしてもらえるよう働きかけや説明を行っている。拠点間のレベルが異なることがあるが、地域防災アドバイザーが拠点運営委員会に派遣できるよう予算を組んでおり、拠点の開設・運営の底上げにつなげていきたい。

補充的避難場所についても地域主体で開設してもらおうことなるが、県立高校3校を中心に補充的避難場所の役割や開設条件の理解が進むよう区としても取組を進めている。

中島議員：オリンピック・パラリンピック競技体験会の6年度の実施種目が決まっていれば教えてほしい。

岩崎地域振興課長：5年度に実施した種目は引き続き実施し、6年度は市スポーツ協会とともに新しい種目が組めるよう調整をしている。

中島議員：戸塚では大規模なスケートボードパークが建設中だが、戸塚の一つの名所になると期待している。令和8年にオープンすることをPRしてほしい。

伏見議員：「みらころ（多世代地域交流食堂）」はこども食堂も含めて地域で取組んでいる。子どもが1人では夕方5時までしか残れないと聞いた

が、指定管理者の取り決めか。

雨堤区政推進課長：食事を提供するにあたり警察や地域から、子どもを帰す時間帯は5時位の明るい時間が良いという意見を聞いて決めたと、「みらころ」のスタッフから聞いている。

伏見議員：夏場ならあと1時間位遅らせられるなど、夏時間・冬時間の様な設定があっても良いのではないか。

雨堤区政推進課長：夏など家族が一緒であれば5時以降も大丈夫という話しも聞いているので、「みらころ」と相談しながら調整したい。

伏見議員：地域防災アドバイザー派遣は1拠点に1回など回数の割り当てはあるのか。

青少年防災対応力強化事業は中高生が対象だが、拠点の訓練に参加することは厳しいと聞いている。この事業で防災倉庫に何があるかといったことや、はまっこトイレの組み立て方などは教えているのか。

藤咲総務課長：派遣回数ですが、複数回伴走型の支援要望がある場合は要望に応じて回数は設定しており、予算では20回とあるが予算の許す限り対応したいと考えている。

岩崎地域振興課長：汲沢中学校などは中学校自体が拠点であるので、先生と話しをして中学生に参加してもらい、地域の方と一緒に活動している。先生方は横のつながりがあるので、こういった取組を共有してもらい、青少年防災対応力強化事業に中学生が来て地域に還元するという流れを作っていきたいと考えている。

伏見議員：有事の際、子ども達も一緒にはまっこトイレなどの設置ができるように、拠点の訓練に参加できるように検討してほしい。

ひよこ会の取組は、お母さん同士のつながり作りの場となるなど、大変良い取組だと思うので、これからも続けてほしい。

地域ケアプラザでの1歳児講座は、新たに出張講座を行うのか。

小嶋こども家庭支援課長：1歳児講座は令和5年度から試行的に実施して評判が良かった事業であるが、子どもを連れて区役所まで来ることが困難な方もいるので、地域ケアプラザ等の区内3か所で新たに行い、講座の充実を図っていく。

伏見議員：Welcome 戸塚！転入者おもてなし事業について、内容の見直しとあるが、どこを見直すのか。

藤咲総務課長：転入された方向けに、必要な手続きや書類をまとめた案内があったが、分かりにくいという課題があった。デザイン面も含めて全体的に見直しを行っていく。

山浦議員：市民協働推進センターと区役所の連携は非常に大切だと思っている。戸塚区民の方がどれくらい相談に来ているのか。区役所から市民協働推進センターを案内した件数はどれくらいあるか。

岩崎地域振興課長：各区に区民活動センターがあり、戸塚区は東戸塚にある。戸塚区民活動センターでは区民から多くの相談を受けており、区民から区役所への相談も戸塚区民活動センターにつないでいる。戸塚区民活動センターで対応できるものは対応し、全市的につなげた方が良いものは戸塚区民活動センターを経由して市民協働推進センターにつなげ、その後のフォローも連携して行っている。手元に件数はないが、そういった流れで対応している。

山浦議員：神戸市にある「K I I T O」では、市民や区民が協働して地域の課題を解決した事例をPRしている。市の協働推進センターにも伝えるが、実績をPRしてほしい。

DV被害にあった母の会、子どもを連れ去られた母の会に昨日参加し、お金も持たずに家を追い出され行政に相談したが、支援してもらえなかった、という話しも聞いた。区役所に子どもが連れ去られた相談があったか。また、DV被害にあった方にどのような支援があるか知りたい。

小嶋こども家庭支援課長：DV相談は区役所の場合は「女性相談」として、基本的には被害にあった女性からの相談のみ、男性からのDV相談は

市で対応する。DV相談は女性のみの場合も子どもが一緒の場合もあり、対応手法の詳細はこの場ではお伝えできないが、安全を確保するための対策は取っており、ご本人の希望を聞きとり本人の保護、子どもの保護という対応はしている。

山浦議員：昨日の会議で横浜市の対応はよくない、と被害にあった方々が言っていたので、速やかに適切な対応をしてもらいたい。子どもを連れ去られた被害が多発しており、令和5年3月29日に警察庁から各都道府県署長あてに通達がでていいる。警察に被害届を出した方が区役所に相談にくると思うが、現状ではどのような対応をしているのか。

小嶋こども家庭支援課長：子どもが連れ去られているという状況について、DV被害を受けている女性が子どもと一緒に逃げているという場合であれば、その対応を取る際、警察に加害者から捜索願がでて、受理しないしてほしいという不受理願を出す形を取っている。先生のおっしゃる今回の被害届を出されているということについては、横浜市では対応しないケースと思われる。

山浦議員：当事者や超党派の国会議員の先生方も交えて勉強会もしている。警察庁からの通達も出ているのに横浜市はこの辺の対応が遅れていると感じている。市にも伝えるが、区としても、当事者からの相談があったら警察とも連携して寄り添った対応をしてもらいたい。

坂本議員：令和6年度の個性ある区づくり推進費で、他区で行っていない戸塚区独自の事業を教えてください。

岩崎地域振興課長：とつか音楽の街づくり事業は音楽に特化した事業で、「とつかストリートライブ」は、戸塚駅周辺の賑わいと活性化、ミュージシャンの発表の場を創出しているの、その手法について他区から問い合わせもある。また、「音楽交流ひろば」は、0歳から未就学児が対象で、泣いても騒いでも動き回ってもよく、気軽に音楽と触れ合える事業で体験もできる。

雨堤区政推進課長：とつかSDGs・脱炭素化推進事業の「SDGs推

進事業」では、北海道下川町の取組を活用しながらSDGsの機運醸成を図っている。また、エフエム戸塚と協働で小中学生がSDGsや環境活動に取り組んでいる企業を取材しエフエム戸塚で放送する取組をしている。

脱炭素化普及啓発事業では、区民の方が自主的に設立した「とつかエココーディネーター協議会」と協働で、パネル展や省エネ相談会、廃食油回収イベントを連携しながら行っており、この「とつかエココーディネーター協議会」という組織があるのは戸塚区だけである。

とつか地域づくり支援事業の「地域づくりステップアップ講座」では、より地域づくりについて学びたい方を対象に講座等を開催しているのも戸塚区独自である。

小嶋こども家庭支援課長：子育て応援事業の1歳児に特化した「1歳児講座」、また、「子どもと家庭を支える虐待防止環境づくり事業」では、子どもの権利を区から子ども達に直接発信しており、これらは戸塚区独自である。

坂本議員：個性ある区づくり推進費として取り組んでいるので、資料上で戸塚区独自の事業が分かるようにしてほしい。

また、3階の区民広間をもっと活用し、本庁舎のように区民がより音楽を楽しめる場所の提供を検討してほしい。

次に、下川町との交流振興についてどのような企画をイメージしているのか。

雨堤区政推進課長：下川町の木材を提供していただき、東戸塚の企業とともに「木育のワークショップ」を保育園で実施し、椅子づくりを通して木の大切さや環境の取組を子どもたちに伝えている。

また、下川町の職員に区民まつりで町のPRをしてもらっている。下川町の環境への取組は最先端であるので、下川町を絡めた環境循環型経営や環境の大切さを動画にし、様々な場面でPRしている。

坂本議員：区民にとって、下川町との交流や町自体の認知度が低いので、積極的にPRし、連携を密にしていってほしい。また、職員間の交流も持てるよう検討していただきたい。

次に、特殊詐欺の被害が令和4年の被害額に対して、令和5年は半減さ

れたが、区役所として一緒になにか取り組んだのか。

岩崎地域振興課長：区内小学生から防犯に関する標語を募集し、その標語を活用した横断幕の掲出等の啓発を行った。また、令和4・5年は留守番電話機能付き電話機の購入に補助を行い、2年で80件を超える申請があった。他にも、警察とともに毎月防犯キャンペーン等を行っている。

さらに、令和6年度は「わんわんパトロール」に続き、ランニング等をしている方へ防犯パトロールの協力をさせていただく「ランニングパトロール」を新規事業として検討している。

坂本議員：特殊詐欺を含め、防犯の啓発はお孫さん世代からの声が届きやすい。ぜひ小中学校との連携を区役所が率先して行ってほしい。

次に、戸塚駅西口大踏切そばの横断歩道について、根本的に横断歩道の存在自体が危ない。可能ならば、第2バスセンターに寄せて信号機を設置するなど対策ができないか。警察の所管だと思うが、なにか改善策を検討しているか。

安達土木事務所副所長：現在、第2バスターミナルの整備を行っているが具体的な改善案は持っていない。

坂本議員：大きな事故が発生する前に、警察と連携し何か対策を検討してほしい。

次に、バス停の改善について、高齢者の方々からベンチを設置してほしいという要望を多くいただいている。ベンチを提供してもいいという企業もあるので、バス事業者と検討できないか。

安達土木事務所副所長：バス停へのベンチ設置を道路管理者としては積極的に行っていない。バス事業者から要望があれば道路占用許可を承認することは可能だが、ベンチを置いても、歩道を2メートル確保できないと人の通行の妨げになる。

坂本議員：全てのバス停とは言わないが、「高齢者に優しいまち」「福祉のまち」という視点で検討してほしい。

地域防災拠点について、体育館の空調が整備されていない拠点はいくつ

あるか。

藤咲総務課長：後ほどお伝えする。

坂本議員：区内小中学校の空調整備状況も含めて資料をいただきたい。

戸塚区ゆるやかな見守り(ゆるもり)推進事業について、高齢者世帯でパートナーが亡くなり1人の寂しさを感じている方が多い。そういった方々もしっかりと見守っていただきたい。

スポーツ・レクリエーション振興事業について、交通局やにぎわいスポーツ文化局にも要望しているが、区内を走るバスにラッピングをして、スポーツチームをPRし、みんなで応援するような取組を検討してほしい。

岩崎地域振興課長：面白いアイデアをいただいたので、今後検討していきたい。

中島議員：下水道管の浸水対策を戸塚駅周辺に設置する件について、昨年、市長に質問して、令和6年度に供用開始を目指していくと答弁があったが、戸塚区に情報がきているか。供用開始時期と合わせて、戸塚駅周辺の浸水対策が進んだということ、区役所としてアピールしてほしい。

藤咲総務課長：環境創造局より、令和6年度末の7年3月までに供用開始ができるよう、場所の選定、地下街の管理者などの関係者と調整を進めている途中と聞いている。区としては、設置後の運用のこともあるので地下街の皆様と考えていきたい。

中島議員：区民の安心の材料となるので、戸塚駅周辺の浸水対策が進んでいるということ、供用開始前から広報してほしい。

次に、踊場地区のベンチについて、ベンチを公道に設置するのは限界があり、全体的に増やすには時間がかかるが、公道以外の土地に設置するのはスピード感をもってできた。年内に2か所、設置できることになったと聞いたが、どの部署がどのように関わっているのか。

雨堤区政推進課長：区政推進課のまちづくり調整が担当である。踊場地区連合から坂道プロジェクトとして兼ねてから相談を受けており、都市整

備局の予算も活用しながら進めている事業で、地域と伴走しながら取り組んできて公道以外の土地活用が実現した。職員が地域の方と一緒に、ここなら置けるということと一緒に考えて、そのお願いを地域の方と一緒に行うことで上手くいった事例だと思っている。

中島議員：ベンチの件は高齢者に優しい街としては必要。公道以外の土地で所有者がはっきりしている場所で協力を求める仕組み、良い取組だと思う。この取組を踊場地区にとどまらず、区全体として横へ展開していくべきと思うが区長の意見はどうか。

國本区長：坂道プロジェクトは先進的な事例としてPRしていきたい。都市整備局の補助金は地域福祉保健計画に記載があれば補助する制度なので、この制度を活用していきたい。バス停のベンチは歩道の確保など条件があるが、設置できる場所なら設置していきたい。

中島議員：区役所が区民に寄り添うという気持ちであることを区民に発信してほしい。

大和田議員：高齢者などから福祉避難所へすぐに避難できる体制にしてほしいという要望があるが、現在はどうなっているのか。

藤咲総務課長：要援護者の避難場所については、まずは地域防災拠点に避難してもらうことになっている。地域防災拠点の中で長期間の避難生活を送ることが難しいと判断された場合には、地域ケアプラザ等の福祉避難所に移ってもらうことになる。

大和田議員：障害者などは避難所を移動したくない。1か所であってほしいと要望している。

藤咲総務課長：その要望は局とも共有し、どういう対応が取れるか検討していきたい。

鈴木議員：ランニングパトロールは多少予算がかかっても、タスキでなくTシャツが良いのではないか。

